

2007年10月1日

## 2007年度年次研究大会のご案内

第6回年次研究大会・総会(2007年度)を以下のように開催いたします。会員の皆さんにおかれましては、積極的なご参加をお願い申し上げます。

会期 2007年11月10日(土)、11日(日)

会場 東京工業大学大岡山キャンパス・西9号館

懇親会 同・西9号館・コラボレーションルーム

〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1

東急電鉄目黒線(旧・目蒲線)・大井町線、大岡山駅下車(急行停車)駅前

\*会場へのアクセス地図は3ページにあります。

\*連絡先等は、次ページの年次研究大会事務局をご参照ください。

### プログラム

4ページ以下をご参照ください(座長は学会ホームページ等で当日までに発表)。

### 参加申し込み

#### 【事前申し込み】

下記の参加費・懇親会費を、同封の郵便振込票にて、2007年10月30日(火)までにご送金ください(入金日がこの日まで有効)。「当日申し込み」より大幅にお得な「事前登録割引」が適用されます。10月30日を過ぎますと、入金の事務処理ができなくなりますので、その際には、当日申し込みをお願いします。なお、振込の控えをもって領収書と受付証に代えさせていただきますので、会場に振込の控えをご持参ください。

<事前申し込み・参加費>

正会員・機関会員・購読会員 4500円 学生会員 3000円

<事前申し込み・懇親会費>

正会員・機関会員・購読会員 5000円 学生会員 3000円

#### 【当日申し込み】

会場受付にて、下記の参加費・懇親会費をお支払いください。

<当日申し込み・参加費>

正会員・機関会員・購読会員 6000円 学生会員 4000円

<当日申し込み・懇親会費>

正会員・機関会員・購読会員 6000円 学生会員 4000円

### 【予稿集のみの申し込み】

参加費には予稿集1冊分の代金が含まれています。年次大会・総会に参加されない方で予稿集の郵送をご希望の方は、同封の振込票で代金3000円(送料込み)をご入金ください。

### 【非会員の参加の申し込み】

事前申し込みの場合、別途振込用紙をお送りしますので、下記事務局まで、できる限り書面でご連絡ください。なお、事前および当日申し込みの金額は以下の通りです。

非会員・参加費      事前申し込み 5500円    / 当日申し込み 7000円

非会員・懇親会費      事前申し込み 5000円    / 当日申し込み 6000円

(非会員・学生は各々1000円引き)

### 宿泊および昼食の手配は行いません

周辺に宿泊施設、レストラン等が多数ございますので、各自でお願いします。

### 保育について

年次大会・総会の際にお子様の保育をご希望になる方は、なるべく早めに下記大会事務局にご相談ください。人数に応じた何らかの対応を、鋭意検討中です。

### 発表者の方へのお願い

一般発表は、一人あたり30分(発表20分、討論10分)です。ワークショップ、オーガナイズド・セッションにつきましては、代表者の方に運営を一任いたします。発表には、OHPおよびPower Pointの使用が可能です(OHPはA会場のみ利用**不可**)。Power Pointは、Windows版 Power Point 2003 でスライドショーができるようにご準備ください。Mac版で作成の場合には、Windows版での動作の事前確認をお願いします。Windows版でもPower Point 2007で作成したファイルはそのままでは動作しませんので、必ず2003の形式でファイルを保存するようにしてください。接続の際のトラブルを避けるために、コンピュータは実行委員会が用意したものをご利用いただきます。ファイルはUSBメモリーでご持参になり、セッションの開始前までに、発表会場設置のコンピュータに各自で事前にインストールをお願いします。なお、ご不明の点は下記事務局にお問い合わせください。

### 年次研究大会・総会 お問い合わせ先

〒152-8552 目黒区大岡山2-12-1 Box W9-56

東京工業大学大学院社会理工学研究科 中島秀人氣付

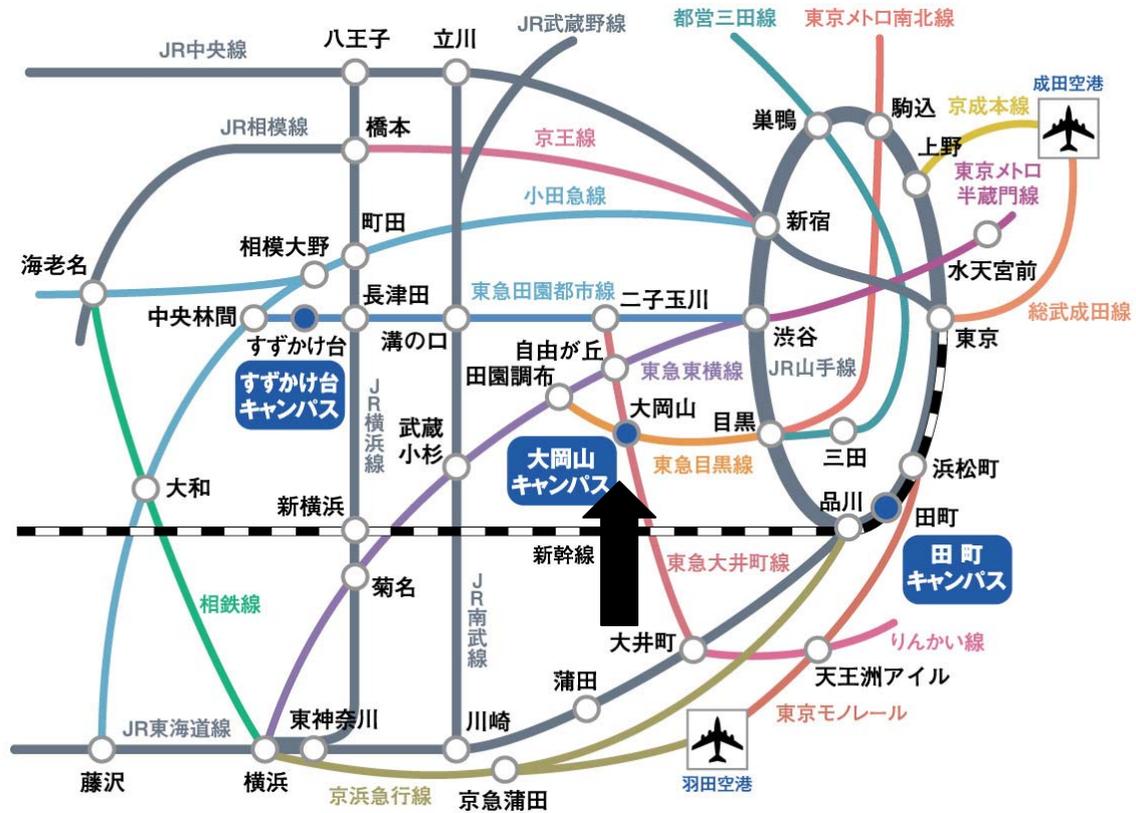
科学技術社会論学会・年次研究大会事務局

E-mail nakajima.h.ab@m.titech.ac.jp

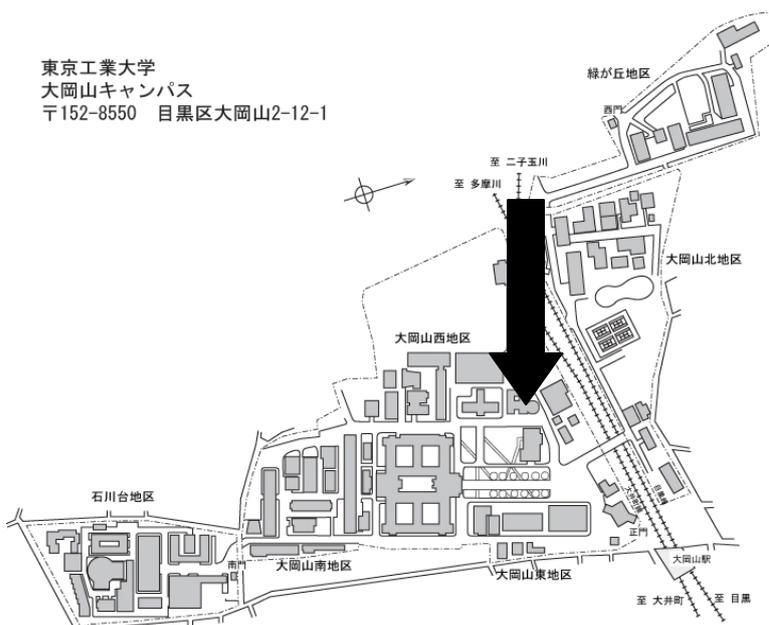
Tel/ Fax 03-5734-3255

郵便振替口座「科学技術社会論学会」 00110-3-70240 (年次大会・総会専用)

会場への地図・キャンパスマップ（会場は矢印の先端です）



東京工業大学  
大岡山キャンパス  
〒152-8550 目黒区大岡山2-12-1



# プログラム

11月10日(土)

A10-1,2 ● 09:00-12:10 WS 【日本の研究所に対する社会的研究(ソーシャルスタディーズ):  
新しいラボラトリー・スタディーズを目指して

オーガナイザー 伊藤憲二(総合研究大学院大学)

原子核研究所と田無問題  
○伊藤憲二(総合研究大学院大学)

情報処理研究における電子技術総合研究所の役割定義の動揺:1966年—1982年  
○大谷卓司(吉備国際大学)

歴史からみた宇宙科学研究所(ISAS)の特色  
○佐藤靖(日本学術振興会)

KEKにおけるBファクトリー  
○平田光司(総合研究大学院大学)

討論者 中井浩二(財団法人国際高等研究所)、松本三和夫(東京大学)

B10-1 ● 09:00-10:30 【科学技術コミュニケーション】

ICタグ社会導入に関する意見抽出のためのコンピュータを用いた方法の検討  
○伊藤京子、大西智士、西田正吾(大阪大学)

社会参加型科学技術者の先覚者 田中久重  
○宮崎和英(福岡大学大学院工学研究科)

ヒロシマにおける市民レベルの科学技術コミュニケーションの現状と課題  
○上野哲(日本学術振興会/広島大学)

B10-2 ● 10:40-12:10 【科学技術コミュニケーション】

気候変動についての人々の理解について  
○青柳みどり((独)国立環境研究所)

風力発電設立地における社会的意思決定プロセスの「不在」をめぐって  
○寿楽浩太(東京大学学際情報学府/東京大学公共政策大学院)

PUSにおける環境アセスメントの意義  
○鳥羽瀬孝臣(NPO科学技術倫理フォーラム)

C10-1 ● 09:00-10:30 【安全・安心とリスク】

ART提供医療専門職のジレンマ—各種専門職の生殖技術に対するリスク認知を例に  
○竹田恵子(大阪大学大学院)

ICタグを用いた子供の安心・安全システムとプライバシー問題  
○江間有沙、藤垣裕子(東京大学)

米国の政策形成過程におけるリスク評価論議  
○遠藤悟(日本学術振興会)

- C10-2 ● 10:40-12:10 【安全・安心とリスク】
- モビリティ社会の安全安心に関わる社会課題の俯瞰的評価  
○橋本泰一、村上浩司、乾孝司、内海和夫、石川正道(東京工業大学)
- 危険性の社会的提起組織のモデルとしての地震調査委員会  
○下田隆二(東京工業大学)
- 医療技術と新しい優生学の問題  
○鶴島暁(北海道大学文学研究科)
- D10-1 ● 09:00-10:30 【科学技術論】
- 科学技術社会論研究における精神分析的観点の可能性—社会的合理性の自己批判的な再検討のために  
○萩原優騎(国際基督教大学)
- 技術論研究30年の哲学と体系(I)—星野技術論の継承から独自技術論の構築へ  
○桜井淳(物理学者)
- 1940年代の欧米科学者による科学技術の社会論—旧ソ連遺伝学をめぐるルイセンコ論争を契機として  
○齋藤宏文(東京工業大学大学院)
- D10-2 ● 10:40-12:10 【科学倫理】
- 科学者の不正行為:日本の科学者事件データベースの構築  
○堀田のぞみ、福田沙織、白楽ロックビル(お茶の水女子大学)
- 科学者の社会的責任論の系譜(その2)  
○藤垣裕子(東京大学)
- 日本人地質学者への聞き取り調査から得られた知見の検討・分析  
○枅内文彦(金沢工業大学)
- E10-1,2 ● 09:00-12:10 WS 【第二ステージの技術者倫理—技術者倫理構築へのストラテジー】
- オーガナイザー 戸田山和久(名古屋大学)
- 技術者倫理構築における技術士の役割  
○打田憲生(日本技術士会・ETの会)
- 技術者が知識を独占できない理由  
○斉藤了文(名古屋大学)
- 社会運動としての専門職業と技術者倫理  
○伊勢田哲治(名古屋大学)
- 技術者自身の「運動」は展開できるのか  
○黒田光太郎(名古屋大学)
- 社会契約モデルを通して技術者倫理分野を理解する  
○杉原桂太(名古屋大学)
- コメンテーター 比屋根均(日本技術士会・ETの会)
- (昼休み) ● 12:10-13:20 【理事会・評議員会】 大会本部(W936教室)
- 13:20-14:10 【総会】 A会場(デジタル多目的ホール)

A10-3 ● 14:20-15:50 WS 【病気や障害をもつ身体を介した技術知と生の技法】

オーガナイザー 松原洋子(立命館大学)

神経難病患者が主導するATの普及活動—ALS患者の技術ピアサポート  
○日高友郎、水月昭道(立命館大学)

情報支援技術開発における技術者の「障害受容」

○韓星民(立命館大学/KGS株式会社)

医学モデルから芸術モデルへの跳躍—舞蹈病と舞蹈の邂逅

○武藤香織(東京大学)

B10-3 ● 14:20-15:50 【科学技術政策】

地域の科学技術政策における“科学的合理性”の位置づけと政策立案者

○影山敦彦(静岡県)

荒瀬ダム廃棄の政治過程—いかにして人工物は政治となるか

○阿部竜一郎(四国学院大学)

国立試験研究機関の独立行政法人化

○塚原修一(国立教育政策研究所)

C10-3 ● 14:20-15:50 【レギュラトリーサイエンス】

遺伝子組替えを巡る言説の分析

○標葉隆馬(京都大学)、加藤和人(京都大学)

米国の公共空間における規制科学論争の裁定メカニズムに関する考察

—魚介類摂食の安全性をめぐる科学論争を事例として

○上野伸子、藤垣裕子(東京大学)

科学技術ブームがもたらす地域の政策立案者と規制科学の相互作用—駿河湾深層水事業を事例にして

○五島綾子(静岡県立大学経営情報学部)

D10-3 ● 14:20-15:50 【技術倫理】

日本におけるプロフェッショナルソフトウェアエンジニア認定の条件

○田中秀和(大同工業大学、日本技術士会・ETの会)

電気技術者の行動規範について

○松木純也(福井大学)

科学技術社会論による技術者倫理事例の分析1

○杉原桂太(南山大学・数理情報学部)

E10-3 ● 14:20-15:50 WS 【「科学コミュニケーション実践教育」開会宣言！】

オーガナイザー 林衛(富山大学人間発達科学部)

視覚に障害のある人とともに考えるサイエンスコミュニケーション

○塩瀬隆之(京都大学)

理系の進路選択を支援する科学技術コミュニケーション

○難波美帆(北海道大学)

マルチメディア表現をとりいれた実践教育

○上山輝(富山大学)

- 16:00-17:30 【記念講演】 A会場(デジタル多目的ホール)

相澤益男氏  
(東京工業大学学長／総合科学技術会議議員)

「総合科学技術会議の描く日本の科学技術の未来像」

司会 平田光司

- 17:40-18:00 【柿内賢信記念賞研究助成金授与式】 A会場(デジタル多目的ホール)

- 18:00-20:30 【懇親会】 コラボレーション・ルーム

## 11月11日(日)

- A11-1,2 ● 09:00-12:10 WS 【「女性は機械に弱い」—神話の生成と現実】

オーガナイザー 桑原雅子(NPO法人学術研究ネット)

女性は機械に弱いか—「女性と機械」概観  
○桑原雅子(NPO法人学術研究ネット)

繊維工業と工場法  
○高橋さきの(翻訳者、東京農工大)

技術と労働—石炭産業の場合  
○後藤邦夫(NPO法人学術情報ネット)

女性は機械に弱くない—現代の女性技術者と機械  
○出浦淑枝(コマツ)

コメンテータ 水島希(東京大学情報学環、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター)

- B11-1 ● 09:00-10:30 【科学技術コミュニケーション】

宇宙100の謎—研究室をベースとする科学コミュニケーション教育の試み  
○齋藤芳子、戸田山和久(名古屋大学)

市民は、なぜ基礎科学のパトロンになったのか?—名古屋大学星の会会員へのアンケート調査  
○山内保典、伊勢田哲治(名古屋大学)、唐沢かおり(東京大学)、  
齋藤芳子、豊沢純子、戸田山和久(名古屋大学)

天文学のイメージは特別なのか?—他の学問イメージとの比較  
○豊沢純子、伊勢田哲治(名古屋大学)、唐沢かおり(東京大学)、山内保典、  
齋藤芳子、戸田山和久(名古屋大学)

- B11-2 ● 10:40-12:10 【科学技術コミュニケーション】

理学広報サイト「美しい!—理学の中にある美しさ」と大学への波及効果  
○小俣友輝(北海道大学総合博物館)

学会・大学・自治体の連携による学術研究のアウトリーチ活動について—日本物理学会、湯川・朝永生誕  
百年記念展、北海道の連携と協力による一般市民講演会の企画立案および実施を通して  
○塩谷まき子(北海道大学理学院)

市民参加による科学的リテラシーの議論を超えて  
—自然再生事業における「ローカルな知」の生成から  
○富田涼都(東京大学大学院／日本学術振興会)

C11-1 ● 09:00-10:30 【ナノテクノロジー】

フランスにおけるナノテク研究開発と熟議民主主義  
○須田文明(農林水産省農林水産政策研究所)

ナノリスクネットパネル—新規技術のリスク論争におけるピアレビューの可能性  
○宗像慎太郎(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)、中西準子、蒲生昌志(産業技術総合研究所・化学物質リスク管理研究センター)

専門家との対話を通じたナノテクノロジーと社会のシナリオマッピング  
○上田昌文、吉澤剛(NPO法人市民科学研究室)

C11-2 ● 10:40-12:10 【ナノテクノロジー】

ナノテクノロジーの「国際標準化と社会受容議論」のダイナミズム  
○柳下皓男(ナノテクノロジービジネス推進協議会)

ナノテクノロジーをめぐる技術と政治  
○藤田康元(産業技術総合研究所ナノテクノロジー研究部門)

市民参加とナノテクノロジー:展望と問題点  
○山口富子(国際基督教大学)

D11-1 ● 09:00-10:30 【研究マネジメント】

モバイル・ブログ・アルバムを活用した実験系研究室のナレッジ・マネジメント  
○吉永崇史(北陸先端科学技術大学院大学・科学技術開発戦略センター)、矢部敏明(株式会社パステルラボ)

大学における「ソリューション研究」展開上の課題  
○大熊和彦、李京柱、下田隆二(東京工業大学)

社会の具体的問題解決を目指す研究開発モデル構築に向けた取り組み:  
科学技術と社会の間に横たわる諸問題への助成機関のアプローチ  
○福島杏子、川原武裕、松丸健一(JST社会技術開発研究センター)

D11-2 ● 10:40-12:10 【研究マネジメント】

アイヌ墓地発掘の論理と倫理  
○植木哲也(苫小牧駒澤大学)

専門用語抽出システムによる共語分析の改良  
○渡辺翼、藤垣裕子(東京大学大学院)

環境科学の制度化と教科書の変遷  
○内山弘美(東京大学)

(次ページに続く)

E11-1,2 ● 09:00-12:10 WS 【社会が最先端の科学と出会うとき—何が必要なのか？】

オーガナイザー 佐倉統(東京大学)

社会はなぜ最先端科学技術を嫌うのか？—フランケンシュタイン・コンプレックスと上流制御  
○佐倉統(東京大学)

脳科学者の白昼「悪」夢—Neurotechnology開発「戦争」最前線への道中から実況レポート  
○長谷川良平(産業技術総合研究所・脳神経情報研究部門)

RT(Robotics Technology)と社会  
○鈴木高宏(東京大学大学院情報学環／生産技術研究所)

2000—2007年のナノテクノロジーの研究開発と社会受容の現状を俯瞰する  
○阿多誠文、関谷瑞木、石津さおり(産業技術総合研究所)

展望：先端科学技術の制御方式  
○廣野喜幸(東京大学大学院総合文化研究科)

討論 指定討論者：札野順(金沢工業大学)

(昼休み) ● 12:10-13:20 【Meet the Board & Meet the Editors】 D会場(W932教室)

A11-3,4a ● 13:20-15:40 WS 【科学／技術とジェンダー】

オーガナイザー 小川眞里子(三重大学)

アジアにおける〈女性と科学／技術〉のネットワーク構築  
○小川眞里子(三重大学)

科学技術政策における女性研究者の活躍促進策の変化と課題  
○塩満典子(お茶の水女子大学)

女子高校生の〈文理〉選択とジェンダー  
○河野銀子(山形大学)

高専女子卒業生の就労等に関する調査報告  
○内田由理子(詫間電波工業高等専門学校)

企業の女性科学技術者をめぐる状況：中部圏を中心に  
○財部香枝(中部大学)

全体討論

(次ページに続く)

A11-4b,5 ● 15:50-18:10 WS 【STS研究と政策研究(第2回)】

オーガナイザー 高橋祐一郎(農林水産省農林水産政策研究所)

(1) ワークショップの目的: 政策機関・シンクタンクにおける最近の研究アプローチを踏まえて  
○高橋祐一郎(農林水産政策研究所)

(2) 事例報告

報告1: なごや循環型社会・しみん提案会議の事例とSTS研究・政策研究

○前田洋枝(東海学園大学)

報告2: 生活者の価値志向変化に対応する科学技術政策研究の必要性

○刀川真(室蘭工業大学/科学技術政策研究所)、光盛史郎(科学技術政策研究所)

(3) 問題提起

問題提起1: 今STSに求められる、政策研究との相互作用とは

○宗像慎太郎(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)

問題提起2: 政策研究の方法論的視座とSTS研究との間に期待される相互作用

○田原敬一郎(財団法人政策科学研究所)

(4) コメント: 行政実務者の立場から

○中川尚志(文部科学省)、他

B11-3 ● 13:20-14:50 【科学技術コミュニケーション】

大気汚染地域における住民による調査学習活動の分析

○重松真由美(東京大学大学院総合文化研究科)

エンジニアリング・ディベートの提案と実践

○安田陽(関西大学)

Web2. 0の広がり科学コミュニケーション

○本間善夫(県立新潟女子短期大学)

B11-4 ● 15:00-16:30 【科学技術コミュニケーション】

Techno-social Constructions of Community in Ubiquitous Computing

○HOPE, Tom (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)

技術者の社会性向上に向けた現状と課題—2つのテクノロジーカフェを中心に

○比屋根均((社)日本技術士会中部支部ETの会)

科学技術コミュニケーションのマッピング:「ゲノムひろば」スタイルの位置づけと展望

○日比野愛子(京都大学人文科学研究所)、加藤和人(京都大学人文科学研究所、京都大学大学院生命科学研究科)

B11-5 ● 16:40-18:10 【科学技術コミュニケーション】

ALS患者のピア・サポートにおける科学技術コミュニケーション

○日高友郎(立命館大学)

欧州における科学コミュニケーター養成教員のための教材開発事例—ENSCOTの取り組み

○中村理(早稲田大学・政治学研究科)

C11-3,4 ● 13:20-16:30 WS 【Ethics Crossroadsの形成と科学技術倫理の構築】

オーガナイザー 札幌順(金沢工業大学/RISTEX)

Ethics Crossroadsの形成と科学技術倫理の構築  
○札幌順(金沢工業大学/RISTEX)

国際的科学技術倫理綱領の策定プロジェクト  
○金光秀和(金沢工業大学/RISTEX)

金沢工業大学におけるEAC教育体制の、よりいっそうの充実に向けた取り組み  
○西村秀雄(金沢工業大学/RISTEX)

科学技術倫理教育へのeラーニングシステム「Agora」の導入  
○枘内文彦(金沢工業大学/科学技術振興機構, RISTEX)

金沢工業大学における技術者倫理教育の教育効果測定手法について  
○本田康二郎(金沢工業大学/RISTEX)

技術倫理と整合する企業倫理プログラムモデル構築  
○大場恭子(金沢工業大学/RISTEX)、大来雄二(金沢工業大学/JABEE)、早瀬賢一(金沢工業大学/電中研)、岡部幸徳(金沢工業大学)、本木あや子(金沢工業大学)

D11-3 ● 13:20-14:50 OS 【リスクガバナンスにおける科学・政治・アクター】

オーガナイザー 平川秀幸(大阪大学)

米国産牛肉BSE問題における科学と社会の相互作用  
—「総合判断としてのリスク管理」の観点から  
○平川秀幸(大阪大学)

遺伝子組換え食品の安全性をめぐる国際合意  
○松尾真紀子(東京大学)

カネミ油症事件の社会的再発見プロセスとリスクガバナンス  
○中島貴子(東京大学)

D11-4 ● 15:00-16:30 【気候変動問題】

気候変動枠組条約における技術移転問題に対する認識の分析について  
○村山麻衣(東京大学大学院新領域創成科学研究科)

二酸化炭素回収貯留技術に関するステークホルダーの考え方の国際調査  
○板岡健之、齋藤文(みずほ情報総研)、藤井泰正、島田荘平(東京大学)、  
鈴木達治郎、杉山大志(電力中央研究所)、赤井誠(産業技術総合研究所)

二酸化炭素回収貯留技術の社会的認知状況と受容性に影響を与える情報に関する調査  
○奥田有紀、板岡健之、齋藤文(みずほ情報総研)、赤井誠(産業技術総合研究所)

D11-5 ● 16:40-18:10 【原子力】

社会と原子力に関する意識調査  
○篠田佳彦、鳥井弘之(東京工業大学原子炉工学研究所)

JCO臨界事故報道についての分析  
○中島達雄(東京大学大学院工学系研究科・原子力国際専攻)

科学技術コミュニケーションに係る一考察—放射線をテーマとして  
○牧慎一郎(文部科学省)

E11-3,4,5 ● 13:20-18:10 WS 【ローカル知の組織化と地域社会のデザイン】

オーガナイザー 鬼頭秀一(東京大学大学院新領域創成科学研究科)

ローカル知を活かすランドスケープデザイン

○横張真(東京大学大学院新領域創成科学研究科)

ローカル知を有する河川技術者の重要性—ランドシャフト保全のために—

○中村圭吾((独)土木研究所)

自然再生事業における市民参加モニタリング

○西廣淳(東京大学大学院農学生命科学研究科)

アダプティブ・ガバナンスと市民調査:フィールドワーク的知と計画的知

○宮内泰介(北海道大学文学研究科)

野生生物と人間生活との共存に資する「共知」の可能性

○丸山康司(東京大学大学院総合文化研究科)

阿賀野川における「負の記憶」の履歴化と「もやい直し」

○関礼子(立教大学社会学部)

森の“聞き書き甲子園”の試み

○久田浩司(NPO法人共存の森ネットワーク)

ローカル知の組織化と地域社会のデザイン総論

○鬼頭秀一(東京大学大学院新領域創成科学研究科)

「地理学」の立場から、「場所性」に関してコメント

○平井幸弘(駒沢大学文学部)